

日本企業における経営と管理会計

教授 前田 陽

1. 研究内容

《概要》

企業で働くビジネスマンには、常に合理的な判断が求められます。管理会計は「数字」を通して、どのような案が合理的か「説得する力」、大局的観点から組織の「問題やビジネスチャンスを発見する力」、そして計画を成功させるために必要な「目標達成までのシナリオ」を導いてくれます。

こうした管理会計の知識は、経営者や経営幹部、企画担当、経理担当にとって不可欠なものです。また商品開発担当や営業マンなども自らの仕事の意義を周囲に説得するために、これを必要とします。そして公認会計士やコンサルタントなど専門家にとって、この知識量が自らの市場価値を決定づけます。

本ゼミでは、ビジネスマンや経営・会計の専門家として活躍する選択肢を大きく広げる管理会計、ならびにその周辺知識を学ぶとともに、企業の業績などを高めるには、どのような経営システムの中で用いるべきかを研究します。簡単に言えば、「経営学」と「会計学」を同時に学ぶのが、本ゼミです。

《具体的内容》

- 具体的な日本企業の事例に基づき、経営や会計の知識をディスカッションしながら学びます。
- 他大学のゼミとのインゼミを通じ、相手を説得させるようなプレゼンテーションを行います。
- 企業見学など現場に出て、企業が実際にどのような経営を行なっているかを体感します。

2. ゼミの進め方

《2年次》

経営や会計の知識を得るために、これらに関係するテキストを読み、皆でディスカッションします。また毎年、企業見学を行ったり、他大学のゼミなどと研究報告会（インゼミ）を実施しています。ゼミ合宿は全員の都合に合わせて夏季休暇中に実施する予定です。

《3年次》

春学期は奨学論文執筆のため、グループごと資料収集、執筆をします。秋学期は就職活動を見据え、企業を理解するためのディスカッションをします。またマネジメントゲームの実施を予定しています。

《4年次》

卒業論文のテーマを個々で自由に設定し、執筆作業に入ります。論文テーマは基本的に自由です。

3. 教材

2年次のテキストとして下記を利用する予定です（変更の可能性もあります）。

- ①山根 節，太田 康広，村上 裕太郎（2019）『ビジネス・アカウンティング 第4版』中央経済社。
- ②伊丹 敬之，青木 康晴（2016）『現場が動き出す会計』日本経済新聞出版社。

4. 成績評価の方法

ゼミ活動への参加度などで総合的に判断します。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o! Meijiにて、後日連絡いたします。

入室志願者、または本ゼミ入室の可能性のある方は、必ずご確認ください。

6. その他・志願者へのメッセージなど

ゼミは毎回参加が前提です。無断欠席をしないようお願いします。